

トピックス Topics

- レポート／あいぽーとふれあい講座「衣食住を見直そう!」開催の報告
- 特集／「パンプキン!」という本ができるまで〜ヒロシマ・ナガサキの記憶を次世代へ〜
- イベント案内など



あいぽーと徳島では、
さまざまなイベントを
開催しています!

第2回
6月26日、三好市で
開催。「マチトソラの想い」阿



第1回 6月18日、沖洲コミュニティセンターで開催。「移動スーパードキュメント」が見た、地域の現状と課題。買い物難民について、高齢者たちが暮らしやすい地域づくりとは」と題して、株式会社とくし丸代表取締役の住友達也さんが講演しました。「①命を守る(買い物難民の支援)②食環境を守る(地域スーパードキュメントの事業創出)③高齢化・高齢型の仕事創出」をテーマに、買い物難民となっている高齢者がいることを知り、この3点を軸に移動スーパードキュメントを始めた。超高齢社会の現場での買い物支援や地域の「見守り隊」としての活動が暮らしやすい地域づくりにつながります。」との話でした。

第3回 7月5日、上板町で
開催。「阿波藍の歴史と文化
について」と題して、四国大学
准教授の瀬部昌秀さんの講

波刻み煙草で栄えてきた町の
地域再生について」と題し
て、阿波池田たばこ資料館の
見学とNPO法人マチトソラ
での研修、うだつの町並みの
フィールドワークを実施しま
した。たばこ資料館では、幕
末から明治にかけて繁栄した
池田のたばこ産業の歴史や文
化、そして現在の取り組みな
どの説明がありました。隣に
ある「スペースキッサー」では、
「広域合併した三好市の『マ
チ』と『ソラ』に残された建物
や文化を住民が主体となって
暮らしの中で活用していま
す。」と、NPO法人マチトソラ
事務局から活動の紹介があ
り、その後うだつの町並みを
フィールドワークしました。



あいぽーとふれあい講座「衣食住を見直そう!」開催の報告



演と実演を実施しました。
「吉野川下流域は肥沃な土地
であり水の便もよく、藍栽培
には適した地域であったとい
えます。阿波藩の政策により、
江戸時代に生産量をのばし、
全国に藍玉(すくも)を練り固
めて(ふし大にしたもの)とし
て染料を供給しました。明治
36年には最高の生産規模と
なりましたが、化学染料の発
明で急激に生産が減少しま
した。近年、昭和50年頃から
郷土の伝統ある産業としての
見直しや伝統工芸品、自然の
手作り作品としての注目と
人気を受けて藍栽培も増加
してきました。また、学校や
様々な場面で学習体験が行
われるようになりました。四
国大学でも藍染めの授業を
しています。」と、阿波藍の歴
史、生産農家の生活文化など
詳しい話があり、その後、全員
で藍染め体験をしました。

イベントの
ご案内

第2回特別展示記念講演会

「世界、そして東北を生きる子どもたち」

参加無料

- 日 時: 平成26(2014)年11月21日[金] 午後1時30分～午後3時30分
- 会 場: 沖洲マリンターミナルビル 2階「マリンホール」(徳島市東沖洲2丁目14)
- 主催・問い合わせ: あいぽーと徳島



講師 安田 菜津紀(やすだ なつき)さん プロフィール

1987年神奈川県生まれ。studio AFTERMODE所属フォトジャーナリスト。16歳のとき、「国境なき子どもたち」友情のレポーターとしてカンボジアで貧困にさらされる子どもたちを取材。現在、カンボジアを中心に、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で貧困や災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。2012年、「HIVと共に生まれる〜ウガンダのエイズ孤児たち〜」で第8回名取洋之助写真賞受賞。共著に『アジア×カメラ 「正解」のない旅へ』(第三書館)、『ファインダー越しの3.11』(原書房)。上智大学卒業。TBS「サンデーモーニング」に出演中。

特別展示

「心身の成長期を奪われる世界の子どもたち」
～貧困の連鎖を断ち切り、子ども自らの夢を叶えるために～

入場無料

- 期 間: 平成26(2014)年11月8日(土)～11月30日(日)
- 場 所: あいぽーと徳島「展示・交流スペース」(徳島市東沖洲2丁目14)
- 展 示 物: 「児童労働にレッドカード〜児童労働の現状、取り組み〜」
(公財)人権教育啓発推進センター 人権ライブラリ所蔵
安田菜津紀さん取材写真

みなさん是非
ご参加下さい。



ご案内

「女性活躍推進フォーラム」の開催について

徳島県では、平成26年度を「女性の活躍元年」と位置づけ、女性の活躍を応援する社会づくりを推進するため、11月1日から11月8日までの8日間「徳島県立男女共同参画交流センター フレアとくしま」を会場に、「阿波おんなたちの飛躍そして未来へ」をテーマに「女性活躍推進フォーラム」を開催します。

【企業における女性の人権】【女性のまちづくりへの参画】【防災力アップへの応援】また、【男性の育児参加応援】など、女性が持てる能力を発揮し、様々な分野での活躍を推進するために、講演会やセミナー等を実施します。是非御参加ください。 ★お問合せは 徳島県男女参画・人権課 男女共同参画担当(電話:088-621-2177)

徳島県では、平成19年度から「11月」を「徳島県人権教育啓発推進月間」として人権教育・啓発に積極的な取り組みを進めています。

人権相談のご案内

あいぽーと徳島では、人権擁護委員・弁護士による人権相談を行っています。まずは電話にてご連絡ください。

Tel.088-664-3701

一人で
悩まず
お電話を

●人権擁護委員による相談
第2・第4土曜日(10:00～16:00)

面接相談及び
電話相談

●弁護士による相談(要予約)
第1・第3金曜日(13:00～16:00)

面接相談

[編集・発行]

あいぽーと徳島

徳島県立人権教育啓発推進センター
指定管理者 特定非営利活動法人ヒューマンライツ 文化・福祉ネットワーク
〒770-0873 徳島市東沖洲2丁目14 沖洲マリンターミナルビル内
Tel.088-664-3719 Fax.088-664-3727

- 開館時間/午前10時から午後6時まで
- 休 館 日/月曜日(祝日の場合はその翌日)
年末年始(12月29日から1月3日まで)

<http://www.aiport.jp>

あいぽーと徳島 検索



公共交通機関のご案内

JR徳島駅前から徳島市営バス【中央卸売市場】行きに乗車し、【沖洲マリンターミナル】にて下車。

「パンプキン!」という
本ができるまで

～ヒロシマ・ナガサキの記憶を次世代へ～
第1回特別展示記念講演会 ●平成26(2014)年8月16日実施



講師

令丈ヒロ子さん

児童文学作家

■「パンプキン」とは？

「パンプキン」というのは、第2次世界大戦中にアメリカ軍が開発し、使用した爆弾のことです。1945年8月9日、長崎に投下された原子爆弾「ファットマン」が、爆弾としては特殊な形状をしていたため、正確に目的地に投下するよう試験的、訓練的なものとして作られた模擬原爆が「パンプキン爆弾」です。その存在が知られたのは、最近のことで、一般的な認知度は非常に低いです。それでも約45トンもある爆弾ですから、その威力は凄まじく、投下された場所には大きなクレイターのようなものができ、多くの死傷者を出しています。

私自身は戦争を体験したことがないですから、「戦争をテーマにした児童文学を書いて良いのか」とものすごくためらいました。それでも書くこうと思ったのは、話をお伺いした多くの方の思いに後押しされたからです。

■本を書くことになったきっかけ

「田辺の模擬原爆証言集」というものに出会いました。これは、模擬原爆が投下された時の様々な情報や、当時の地図、また家族を亡くされた方の証言などが掲載されているかなり詳しいものです。地元の方が熱心に活動されていた

ので「なぜそんなに一生懸命に活動されているんですか」と聞きました。すると返ってきた「原爆は広島と長崎だけの問題じゃない。原子爆弾の投下訓練として行われた模擬原爆の投下によって、さらに大きな被害につながっていく。それは痛ましく辛いことだ。だからこのパンプキン爆弾のことを少しでも多くの人に知ってもらいたいんだ。」という言葉が、強く私の胸に響きました。

■長崎の被爆者の声にも

知り合いに長崎で被爆した90代の女性があります。その方にも執筆にあたって話を伺いましたが、その言葉が強く心に残っています。「ハワイで被爆体験を話す機会があつたけど、見知らぬおばさんにいい



きなり怒鳴られた。『パールハーバーで息子が亡くなったんだ。帰れ。』つて。すぐく腹が立つて『私だつて家族を原爆で殺されたんだ』と喧嘩になつてしまつた。でも、それでは何も解決しませんよね。だからそれから、現地の習慣にならつて、礼儀に叶つたことをすることにしたんです。昔、長崎はとてもフエアな風土でした。いろんな国の人が共存して、いろんな宗教があり、言葉が通じなくても分かち合えるような環境があつたんです。お互いを尊重し、お互いの習慣を尊重し合えるような国に、まだできたらいいなと思います。』と話してくれました。

■小学生に伝えると聞いて

こうした思いを次世代にもつなげていくため子どもたちに伝えていきたい。そんな想いを持つて書いたのが「パンプキン」です。小学生にもわかるように書くのは難しいです。一冊の本で世の中が変わるとは、もちろん思っていない。だけど、子どもたちに大人が様々な問題を伝えていく努力は大切なことだと思っています。この本を通じて記憶を、事実を、歴史をつないでいければ嬉しく思います。



パンプキン!
模擬原爆の夏

作: 令丈ヒロ子
絵: 宮尾和孝
講談社

「パンプキン^{ぽく だん}爆弾」とは？

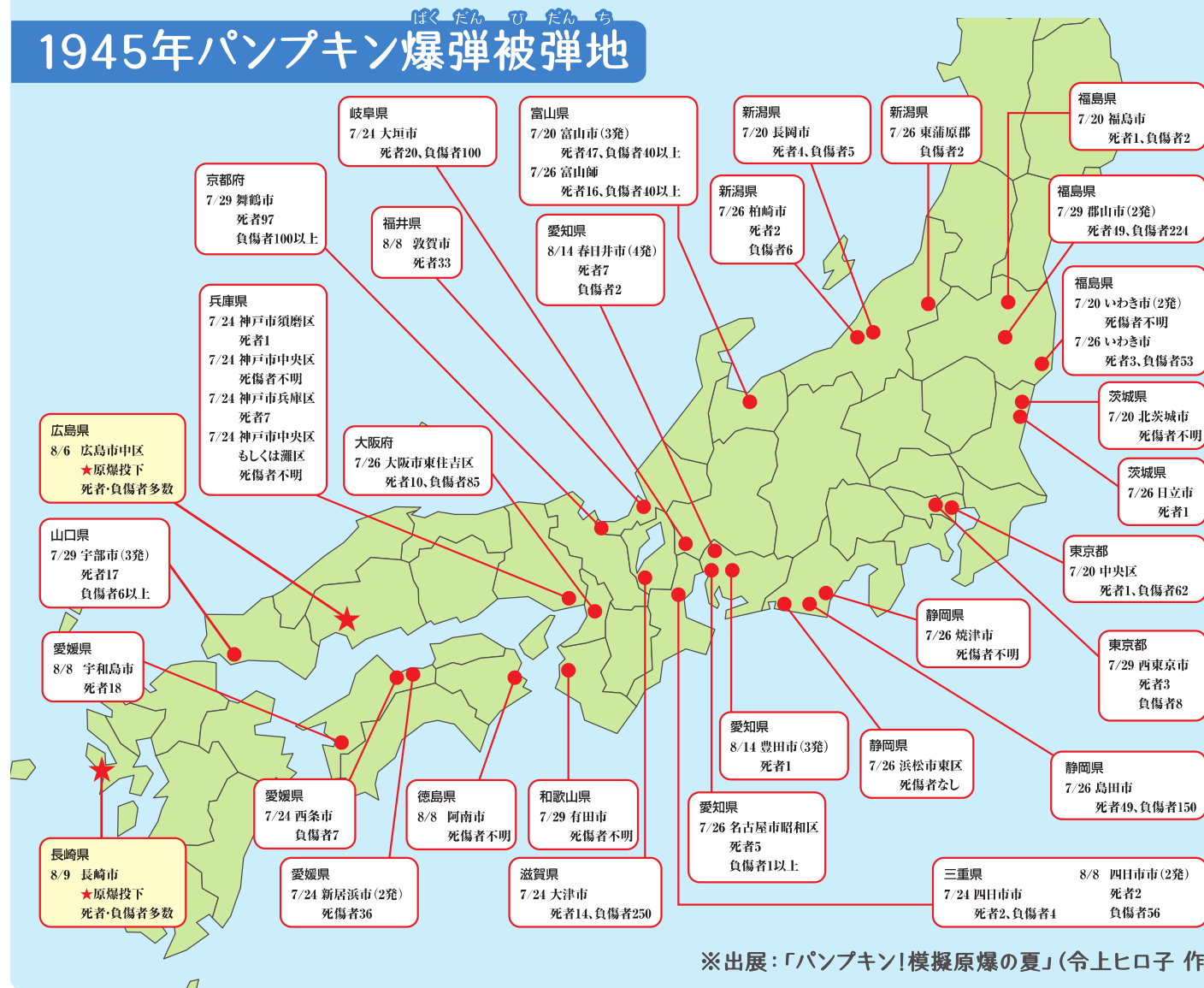
1945年8月9日、長崎に投下された原子爆弾とほぼ同じ形をしている爆弾です。ただし核物質をつんでいないため、核爆発は起こりません。爆弾の軌道や特性を調べたり、パイロットの爆弾投下の練習として、日本全国に投下された「模擬原爆」です。その丸い形状とオレンジ色に着色されていたことから、「パンプキン爆弾」と呼ばれ、7月20日から8月14日にかけて、30都市に49発が投下されました。



長崎型原爆ファットマン

核物質をつまみ食いものの、約4.5トンと巨大だったポンプキン爆弾の威力は凄まじく、全国で死傷者1,600名を超す被害を出しました。長い間この事実が一般に知られることはなく、1991年に愛知県の「春日井の戦争を記録する会」が国立国会図書館で、アメリカ軍の資料から発見し、模擬原爆ポンプキン爆弾の詳しい内容がわかるようになりました。資料によると49発のうち1発が8月8日、徳島県内に投下されたことが分かっていますが、詳しい被弾地点や被害については不明です。

1945年パンプキン爆弾被弾地



※出展:「パンプキン!模擬原爆の夏」(令上ヒロ子 作)

参加者の声

● 模擬原爆という実験爆弾が、本当に大きな原爆という悲惨な出来事につながったことをつらく感じます。戦争の悲惨さは、今なおたくさん出てきて、2度と戦争を起こしてはならないと思います。

●児童文学作家の方が、本を作るまでの過程と、原子爆弾と模擬原爆という難しいテーマを子どもにどう伝えるか、いろいろ思考されているのが分かりよかった。

● 広島、長崎に落とされた原爆は、予行演習を行って実行されたことを知って、シヨックを受けた。